

花壇苗の産地づくり

1. はじめに

和歌山市では平成2年に大阪で開催された“花の博覧会”を契機として本格的な花壇苗生産が始まっている。現在3戸が播種機などの導入や品目の組み合わせによる周年生産に取り組んでいる。

一方こうした流れとは別に、JAわかやま、県農、普及センターが連携して、JAわかやまの育苗センター（グリーンステーション、平成4年度竣工）を利用した花壇苗の産地づくりに取り組んでいる。そこでこの事例を紹介したい。

2. 取り組みの内容

この取り組みは、キャベツ、白菜などの野菜苗の育苗センターを有効利用し、新しい品目の産地化を進めるということで始まった。

同センターの施設（ポットイングマシン、播種機など）が利用でき、しかも露地での栽培が可能な作目ということで、パンジーの花壇苗栽培を導入することになった。普通の花壇苗生産では、用土の調整や播種・育苗から出荷・販売までの全過程を一生産者で行わなければならない。しかし、用土の調整、播種、育苗を同センターを利用して一括して行うことで、ポットイング以降の栽培管理をある程度マニュアル化し、だれでもが取り組める形となっている。

現在、花壇苗生産に取り組んでいるのは、JAわかやま花壇苗部会の14戸で、平成8年

春にマリーナシティーで開催予定の“きのくに花まつり”を目標に、パンジーとアリッサ

ム（60,000ポット：うち場内直売分20,000ポット）の栽培を行っている。

今年度は、このイベントに焦点を絞ったことから、10月中旬に播種し、11月20日以降順次鉢上げを行った。

栽培者のほとんどが露地栽培（ハウスは4戸）で栽培地の条件も個々に異なるため、予定の時期までに株をつくり一斉にうまく開花させることが難しい。

そこで、JA、県農、普及センターの3者で連携をとり、活着後、生育中期及び出荷前の各ポイントで巡回を実施し、きめ細かくチェックしている。

3. 今後の方向

個々の生産者が少なく（1戸4,000～6,000ポット）、露地栽培中心ということで、現在パンジーなど限られた品目しか取り組めないが、施設化により耐寒性の弱いマリーゴールドやピンカなど品目の組み合わせにより周年生産・出荷を目指すとともに、大規模生産者では取り込みにくい栄養繁殖系品目（グラントカバーなど）導入の検討も進めてゆきたいと考えている。

（和歌山地域農業改良普及センター）

編集後記

木々の新緑も日増しに濃くなり、夏の到来を感じさせます。特産のウメも大きく膨らんでまいりました。本年の収穫予想は、いかがでしょうか……（K・K）

和歌山県暖地園芸センターニュース No.8

平成8年5月20日発行

編集・発行 和歌山県暖地園芸センター

〒644 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

電話0738-23-4005

FAX0738-22-6903